

2024

令和6年度



Wakayama University
Center for Japanology Studies

日本学教育研究センター

事業報告書



wakayama
univ.

目 次

	頁
【1 基幹事業概要】	
（1）交流協定締結状況	4
（2）外国人留学生在籍者数	4
（3）協定校との連携実績	4
（4）実績報告（受入・派遣・イベント・地域連携・来訪等）	4
【2 日本語・日本文化・日本学教育関連事業報告】	
（1）2024 年度日本語・日本文化・日本学教育関連事業の概要	7
（2）わかやま日本学副専攻プログラム/わかやま日本学プログラム	7
（3）授業風景	9
（4）イベント	9
＜第 16 回作文コンクール＞	
＜第 22 回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト＞	
＜日本語日本文化研究発表会＞	
＜国際シンポジウム第 4 回「アジアにおける日本語教育-日本語教育の現在地-」＞	
（5）全体まとめ	12
【3 国際教育・交流事業】	
（1）【短期派遣】グアム短期留学プログラム（グアム大学）	14
（2）【短期派遣】フランス短期派遣プログラム（オーデンシア・ビジネス・スクール）	15
（3）【短期派遣】ベトナム短期留学プログラム（ホーチミン市師範大学）	16
（4）【短期派遣】第 12 回タイ・プログラム（「海外体験演習（タイ）」）	17
（5）【短期派遣－他機関】JICA 海外協力隊体験プログラム（ガーナ、マラウイ）	18
日本学教育研究センタースタッフ一覧（2025 年 3 月 31 日時点）	19

【 1 基幹事業概要】

(1) 交流協定締結状況

交流協定の締結状況は、以下をアクセスしてください。

[交流協定締結状況](#)

(2) 外国人留学生在籍者数

在籍者数の現状につきましては、以下をアクセスしてください。

[外国人留学生在籍者数](#)

(3) 協定校との連携実績

協定校との連携実績につきましては、以下をアクセスしてください。

[協定校との連携実績](#)

(4) 2024 年度で実施した各種イベント実績報告

青色で記載したイベントについては、詳細をアクセスすることが可能です。

▼実施日

▼実施内容

2024/ 4/ 3	受 入	新入留学生オリエンテーション
2024/ 4/17	イベント	2024 春の新入留学生交流会
2024/ 4/23	そ の 他	塚本治雄国際交流基金設置記念式典
2024/ 4/24	来 訪	キルギス共和国駐日特命全権大使来訪
2024/ 5/16・17	イベント	交換留学ガイダンス 2024 春
2024/ 5/22	来 訪	韓国総領事来訪
2024/ 5/22	地域連携	JR 避難訓練
2024/ 5/25	イベント	留学生見学旅行「バスで行く大阪日帰りツアー」
2024/ 5/29	派 遣	ランチタイム交換留学相談会
2024/ 5/31	地域連携	有田川町立八幡中学校 留学生との交流授業
2024/ 6/ 4～ 7/ 4	イベント	多言語サロン 2024 前期
2024/ 6/ 4	地域連携	貴志中学校職業体験
2024/ 6/13	地域連携	和歌山市観光に関する留学生ヒアリング
2024/ 6/16	地域連携	書道パフォーマンス体験
2024/ 6/21	地域連携	ベイカースフィールド市学生訪日団との交流会
2024/ 6/26	派 遣	留学前ガイダンス&危機管理セミナー （交換秋派遣）
2024/ 6/29	そ の 他	「JASSO 外国人留学生のための進学説明会」 出展
2024/ 7/ 9	受 入	ウーロンゴン大学学生訪問団
2024/ 7/11	地域連携	南加和歌山県人会子弟 2 名と交流授業
2024/ 7/16～22	受 入	短期交流学生サマープログラム
2024/ 7/18	受 入	山東師範大学訪問団
2024/ 7/30・31	派 遣	海外短期留学プログラム合同説明会

2024/ 7/31	イベント	作文コンクール表彰式
2024/ 8/ 5	受 入	タイ学生訪問団
2024/ 8/23	来 訪	在大阪ベトナム社会主義共和国総領事の表敬訪問
2024/ 8/26	受 入	中国山東省友好提携 40 周年記念訪問団
2024/ 9/20	イベント	日本語・日本文化研修留学生 修了式
2024/ 9/25	受 入	中国清華大学学生代表団
2024/ 9/30	受 入	新入留学生オリエンテーション
2024/10/ 8	イベント	2024 秋の新入留学生交流会
2024/10/15	派 遣	フランス・オーデンシアビジネススクール留学説明会
2024/10/19・20	そ の 他	「JASSO 日本留学フェア（ホーチミン・ハノイ）」出展
2024/10/28	来 訪	在ブリスベン日本国領事館の表敬訪問
2024/10/30・31	派 遣	2024 秋の交換留学報告会
2024/11/11	受 入	カーティン大学学生訪問団
2024/11/26	受 入	山東省訪問団（日中植林・植樹国際連携事業）
2024/11/ 7～ 12/24	イベント	多言語サロン 2024 後期
2024/12/ 4・10	派 遣	留学前ガイダンス&危機管理セミナー（交換春派遣）
2025/ 1/14	イベント	学内国際交流イベント「マレーシアの日」
2025/ 1/14	そ の 他	国際同窓ネットワーク・マレーシア結成
2025/ 1/21	地域連携	橋本高校との交流授業
2025/ 1/22	地域連携	中南米県人会子弟 2 名と交流授業
2025/ 1/27・28	派 遣	危機管理セミナー（短期留学プログラム）
2025/ 1/28	派 遣	JICA アフリカ派遣学生への激励会
2025/ 1/29	そ の 他	長友文子教授退職記念講演
2025/ 2/17・18	受 入	短期交流学生ウインタープログラム（オンライン）
2025/ 3/26	来 訪	中国駐大阪総領事来訪

【2 日本語・日本文化教育関連事業報告】

2024 年度日本語・日本文化・日本学教育関連事業報告

日本学教育研究センター 教授

長友 文子

Ayako Nagatomo

准教授

安本 博司

Hiroshi Yasumoto

特任助教

嶋本 圭子

Keiko Shimamoto

(1) 2024 年度日本語・日本文化・日本学教育関連事業の概要

2023 年度に、正規学生を対象とした「わかやま日本学副専攻プログラム」と、非正規学生を対象とした「わかやま日本学プログラム」を新たに開設し、今年 2 年目を迎えました。プログラム内の日本語科目は留学生が受講しますが、日本文化や国際に関連する科目は、日本人学生と留学生が共に学ぶ共修科目となっています。様々な国から集まった学生が日本学を学ぶことで、日本文化をより深く理解する機会が提供されます。また、増加する留学生の多様なニーズに対応するため、これらのプログラムでは新たな科目が開設されています。その中には、フィールドワークやゲストスピーカーを招いて行われる科目など、地域の方々との連携を重視した科目もあります。以下に、日本学プログラムの内容をご紹介します。

(2) わかやま日本学副専攻プログラム／わかやま日本学プログラム

わかやま日本学副専攻プログラム

わかやま日本学副専攻プログラムは、日本文化が集積する和歌山の地に根付く知恵や知識の学びと体験を通して、日本語とその背景にある日本文化を統合した日本学を修め、日本文化への深い理解力を培う教育プログラムです。

様々な国の学生と共に日本学を学ぶことで、日本及び世界の諸課題をグローバルな課題の中に位置づけながら、理解、表現する能力を涵養します。

わかやま日本学副専攻プログラムの修了認定について

以下に掲げる授業科目のうち、所定の18単位を修得し、修了認定された学生には3年後期より学長名で「修了認定証書」を交付します。

カリキュラムマップ

年次	1 年	2 年	3 年	4 年
必修科目	日本語基礎	日本語基礎	日本語基礎	日本語基礎
選択科目	日本事情(日本の社会と文化)	世界の中の日本語	ビジネス・コミュニケーション	日本学演習
指定した選択科目	日本学演習	日本学演習	日本学演習	日本学演習
必修科目	日本語科目	日本語科目	日本語科目	日本語科目
必修科目	英語・初級外国語科目	英語・初級外国語科目	英語・初級外国語科目	英語・初級外国語科目
必修科目	国際関係論	国際関係論	国際関係論	国際関係論
必修科目	グローバル社会論	グローバル社会論	グローバル社会論	グローバル社会論
指定した選択科目	指定した選択科目	指定した選択科目	指定した選択科目	指定した選択科目

和歌山大学

わかやま日本学プログラム

わかやま日本学プログラムは、日本文化が集積する和歌山の地に根付く知恵や知識の学びと体験を通して、日本語とその背景にある日本文化を統合した日本学を修め、日本文化への深い理解力を培う教育プログラムです。

様々な国の学生と共に日本学を学ぶことで、日本及び世界の諸課題をグローバルな課題の中に位置づけながら、理解、表現する能力を涵養します。

わかやま日本学プログラムの3つの柱

「コミュニケーション能力」

日本語を基盤として、多様な国語を持つ学生、学内外・地域の人々とのコミュニケーションや、プレゼンテーションができる国際能力を涵養する。

「理解と表現」

紀伊半島を中心とした日本文化体験を通して、和歌山への深い理解力を培い、日本文化、日本社会への関心を高め、国内外の人々にその学びを発信することができる。

「俯瞰的な視野」

「わかやま日本学プログラム」を通して、学修・体験したことを国際的な視点や他国の視点から位置づけるとともに、多様な人々との交流・協働の経験を通じて異文化を理解する能力及び実力を身につける。

わかやま日本学プログラムの修了認定について

非正規留学生として本学規定に定める期間在学し、所定の18単位を修得した学生には、「修了認定証書」を交付します。

Wakayama Japanology Studies Program

和歌山大学

開講科目

2024年度

	科目名	科目区分	単位	内 容
日本文化関連	必修 日本学概論	教養科目【基 幹】	2	多言語多文化共生が必要とされる国際化の時代において、日本の社会や文化に関心をもつ学生を対象とする科目です。和歌山を含む地域を日本及び国際的な視野に関連付けて、言語、社会などの多様な視点から日本語・日本文化・日本社会を取り上げ、広く日本学の基礎を学びます。
	選択必修 日本学演習	教養科目【実 践】	2	日本文化について関心をもつ学生を対象とする科目です。和歌山及び周辺地域でのフィールドワークを通して、歴史や文化、ポップカルチャーなどを学ぶとともに、伝統文化に関する体験学習を組み込むことで、日本文化を総合的に理解することを目指します。また、体験学習から発表までの一連の活動を通して、個々の文化理解を深めています。
	日本学特論【後期のみ】	連携展開科目	2	語学科目、日本学概論で学んだグローバルな視点などを土台に、日本語、日本文化、日本の社会についてテーマを取り上げ、講義やディスカッションを通して、日本学についての理解を深めます。講義には、ゲストスピーカーを招く予定です。
	選択 日本事情 (日本の社会と文化)	教養科目【実 践】	2	現在日本の衣・食・住といった生活文化や、家族や地域社会の在り方などについて学び、また、和歌山の伝統的な祭りに参加したり、日本の料理や武道や遊びなどを体験したりするなど、多様な学習を通して日本について学びます。
	選択 ビジネス・コミュニケーション	連携展開科目	2	将来、日本企業や日本を市場とする企業などへの就職を志望する学生を対象とする科目です。ビジネス場面で使用される日本語の会話力や文書力を身につけます。
	選択 世界の中の日本語	連携展開科目	2	日本語を母語としない学習者に対する日本語教育に関心をもつ学生を対象とする科目です。日本語を「国語」としてではなく「外国語としての日本語」としてとらえ、日本語の特徴を学び、外国人に対する日本語の教え方や、「やさしい日本語」「継承語」など多言語社会における日本語、日本語教育の問題について学びます。
	選択 ビジネス日本語	連携展開科目	2	将来、日本企業や日本を市場とする企業などへの就職を志望する学生を対象とする科目です。ビジネス場面で使用される日本語の会話力や文書力を身に付け、日本企業の商品、宣伝・広告、社会貢献活動・SDGsへの取り組みなどについて調査・発表し、さらに日本文化の基礎教養を身につけて、将来日本企業などで活躍することを目指します。
10 単位	選択 外国語として学ぶ日本語	連携展開科目	2	日本語を「外国語」として見る目を養い、その基本的な文法や語彙を、日本語学習者がわかる日本語で説明できるスキルを学びます。また、日本語教師になるための基礎知識を身につけ、理論に基づいた実践ができるようになることを目指します。
	選択 *指定した選択科目 《最大4単位まで含むことができる》 民俗芸能論 わかやまを学ぶ Survey of Pre-Modern Japanese Poetry in Translation Survey of Pre-Modern Japanese Prose in Translation	教養科目【基 幹】	各 2	
4 単位	選択必修 日本語科目 ※外国人留学生対象	教養科目【実 践】	各 2	日本語の4技能を学ぶ科目です。プレシメントテストを実施し、レベルに応じて【初級・中級・上級】のクラスに振り分けを行います。
	英語・初修外国語科目	教養科目【実 践】	各 2	
国際連携関連	選択 国際開発論	教養科目【基 幹】	2	SDGsの諸課題について、履修者の出身国・地域間の比較調査研究や解決に向けた考察をおこないます。グループによる調査研究・分析においては、「わかやま日本学副専攻」で得た知見も含め、多様な視点から解決方法を考える能力を身につけます。
	選択 グローバル社会論	連携展開科目	2	グローバルな課題や取り組みを、自分ごととして捉え、多様な視点で考察できる能力を身につけることを目標とします。和歌山で国際協力、海外展開、地域の課題に取り組まれている方をゲストスピーカーとして招く予定です。
	選択 *指定した選択科目 《最大2単位まで含むことができる》 国際協力論 ASEAN と日本 異文化コミュニケーション共同演習 B International Comparative Education 多様な視点からみる現代東南アジア	教養科目【基 幹】 教養科目【基 幹】 連携展開科目 連携展開科目 教養科目【基 幹】	各 2 1	

Wakayama University
Center for Japanology Studies<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>

(3) 授業風景

【日本事情】



能体験



柔道体験



【日本学演習フィールドワーク(大阪編)】



【日本学演習フィールドワーク(和歌山編ー湯浅町)】

(4) イベント

本センターでは、プログラムとしての科目開設の他に、毎年いくつかのイベント事業を企画開催しています。2024 年度に開催した主なイベントは、次の通りです。

<第 16 回作文コンクール>

日本学教育研究センターでは、「留学生から見た和歌山」というテーマで作文募集を行いました。コンクールの趣旨は、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」を、母語と日本語で書き、世界に紹介しようというものです。

【最優秀賞】 Mazumdar Kaushik 日本語・日本文化研修留学生 (インド)

【優秀賞】 TOJIMAMATOV DUSTMUKHAMMAD SHOMUHAMMAD UGLI 日本語・日本文化研修留学生 (ウズベキスタン)

Nicholas Till 教育学部 交換留学生 (オーストラリア)

【特別賞】 陳安娜 日本語・日本文化研修留学生 (中国)

Bùi Hồng Nhung 教育学部 交換留学生 (ベトナム)

VU THAI SON 教育学部 交換留学生 (ベトナム)

【努力賞】 NGUYEN TRUONG DUY 日本語・日本文化研修留学生 (ベトナム)

Ibragimova Shokhsanam Zokirjon kizi 観光学部 修士課程 (ウズベキスタン)

TRAN MAI ANH 教育学部 交換留学生 (ベトナム)

張悦妍 張悦妍 教育学部 交換留学生 (中国)

Muthia Farha Aidil 日本語・日本文化研修留学生 (インドネシア)

Abeykoon Mudiyanseelage Piyumi Nadeesha Abeykoon 日本語・日本文化研修留学生 (スリランカ)

李彦奇 教育学部 交換留学生 (中国)

DINH NHU MINH CHAU 教育学部 交換留学生（ベトナム）

劉 泓博 教育学部 交換留学生（中国）

潘新明月 教育学部 交換留学生（中国）

Muhammad Ismail bin Izihan 観光学部（マレーシア）

PAULO GUILHERME FERREIRA 日本語・日本文化研修留学生（ブラジル）

応募者の作品は、日本学教育研究センターHPに掲載されています。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/data/sakubun/introduce16.html>



<第22回 学長杯 留学生によるスピーチコンテスト>

第22回「学長杯、留学生によるスピーチコンテスト」を開催しました。開催にあたって、和歌山県／和歌山市／（公財）和歌山県国際交流協会／NPO 法人 WIN コンコード／国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川／高野山大学／和歌山工業高等専門学校／和歌山 YMCA 国際福祉専門学校に後援していただきました。

【スピーチコンテストの様様】



応募者の作品は、日本学教育研究センターHPに掲載されています。

https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00734035/2024.pdf

<日本語日本文化研究発表会>

「日本語日本文化研究」の授業では、日本語日本文化研修留学生が、言葉と文化について研究を行います。1年間かけて、テーマを選び、文献調査やアンケート調査、インタビューなどを行い、日本語日本文化研修留学生としての修了レポートを完成させます。

発表者とタイトルは、日本学教育研究センターHPに掲載されています。

https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00736633/2024.pdf



＜国際シンポジウム 第4回「アジアにおける日本語教育－日本語教育の現在地－＞

日時：2024年11月30日（土）13:30～16:45

参加者：オンライン登録者数 245 名/会場参加者 19 名

内容：本学にて国際シンポジウム 第4回「アジアにおける日本語教育－日本語教育の現在地－」を開催しました。シンポジウムでは、広島大学森戸国際高等教育学院の西口光一先生による基調講演「言語事項主義を克服する日本語の習得と習得支援に向けた新たな言語観」の後、本学での取り組み、そして、中国、ウズベキスタン、韓国、ベトナムの各協定大学での日本語教育の取り組みについて紹介していただきました。

和歌山大学国際シンポジウム / Wakayama University Symposium Series Vol.4

Wakayama University Center for Japanology Studies

アジアにおける日本語教育
— 日本語教育の現在地 —

オンライン Zoom webinar
定員 500名

会場で参加
和歌山大学 西1号館1階会議室
定員 10名

2024年 11月30日(土)
13:30～16:45(日本時間)
参加無料

QRコードより事前にお申し込みください。

今回のシンポジウムでは、日本語教育の今後の在り方を考えます。国内外の日本語教育の現状を共有するとともに、どのような日本語教育を展開することが、学習者にとって意味のある学習に繋げて行けるのかを議論します。

西口光一先生による基調講演「言語事項主義を克服する日本語の習得と習得支援に向けた新たな言語観」の後、本学での日本語教育の取り組み、中国、ウズベキスタン、韓国、ベトナムの各協定大学での日本語教育の取り組みについて報告します。

基調講演
言語事項主義を克服する日本語の習得と習得支援に向けた新たな言語観
西口 光一
広島大学 森戸国際高等教育学院特任教授

総括
長友 文子
和歌山大学 日本学教育研究センターセンター長

事例発表

中国 山東師範大学 外国語学院日本語系教授 李 光員	ウズベキスタン ウズベキスタン国立世界言語大学 日本語学専攻教授 イブラヒムガジザデ イブラヒムガジザデ	韓国 新羅大学 日本語日本学科准教授 吉田 麻衣子	ベトナム ドンナ大学 副学長 ゴ・クアン・ヴァン	和歌山大学 日本学教育研究センター 副センター長 安本 博司

【主催・お問い合わせ】和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター (CJS) TEL.073-457-7524 / Mail cjs@ml.wakayama-u.ac.jp

和歌山大学

(5) 全体まとめ

以上、2024年度の「わかやま日本学プログラム」の開講科目と、年度内に行われた主な＜イベント＞を紹介しました。本プログラムも2年目を迎え、今後、プログラムの検証をおこない、このプログラムを発展させていきたいと思っています。2025年度も引き続き、新しいプログラムの下で、教育活動を展開していきます。今後、日本学教育研究センターにとって、日本語・日本文化教育関連事業の充実化がますます重要になってくると思います。

【 3 国際教育・交流事業】

(1)【短期派遣】 グアム短期留学プログラム(グアム大学)

Gabrakova Dennitza Stefanova

令和7年3月2日～15日の間、全学から23名が、本プログラムに参加しました。滞在期間中は、キャンパス内の寮で生活を共にしながら、午前には主に英語の授業、午後は文化体験授業によって構成されていました。

Miss Gerry 講師による英語授業では、語彙や文法の解説をグアム人の気質を体現するような明るく、魅力的な話しぶりが参加学生を魅了したようです。



また、Miss Gerry 講師が実施した文化体験授業では、例えば、グループワークでグアムの神話について調べ、発表するものがありました。時代を越えて言い伝えられる物語は、太平洋諸島における、人間の声のみならず、木や岩や海の声が織りなす島の優れた表現にいかにも相応しいでしょう。

それにヒントを得て、帰国後の事後学習では、同じ形式で、島から得た美と知

を表現するコラージュの作成を課題としました。グアムのチャモロ文化に刻み込まれている人々の移動と出会いの歴史、グアムの景色、そして、味覚や嗅覚といった五感で捉えたものなどの表現を通して、大変有機的な学習体験になったものと思われます。

現地で参加学生の注目を引いたプラスチック廃材をリサイクルして作られた

亀は、象徴的なオブジェでした。島嶼国で深刻な問題となっている廃棄物処理を考えると、保護対象の Haggan アオウミガメは、グアムから 2000 キロ離れた

沖縄まで移動した記録もあるようにグアムだけの固有の問題ではないことを示しています。(2008、Haggan: Green Sea Turtle - Guampedia)。

このように、本プログラムでは、参加学生がグアムにある問題が固有のものではなく、実は日本も含めた様々な国や地域とつながっていることを意識すること、そして「島」が有する脆弱性からグローバル化する世界を考え直すきっかけになることが期待されています。



(2)【短期派遣】フランス短期留学プログラム（オーデンシア・ビジネス・スクール）

Gabrakova Dennitza Stefanova

令和7年2月22日～3月10日の間、全学から12名が本プログラムに参加しました。歴史的にも貿易が盛んな大西洋の重要な港を擁するナント市（フランス西部）にあるオーデンシア・ビジネス・スクールは、経営学で有名な学院です。

本プログラムは経済学部で教鞭をとっていたコンゴ出身のクパニ教授によって進められました。アフリカのフランス語圏の経済学者として、最先端のビジネスをフランス語やフランス文化に触れながら学習するプログラムを開発されたことは、同じく経済学部に所属し北アフリカのフランス語圏出身のマグレビ教授の存在とも合わせて、単なる外国語教育を越えたフランス研究の一端が本学に根付いているものと言えます。

事前学習では、これらプログラムの起源を振り返ったあとに、ナント市に内在するかつてのフランス帝国の時代や都市の近代性といった歴史的資源を、本学にある資料を通して共有しました（写真1）。

現地ではナントに向かう前日をパリで過ごし、都市の街並みを見学しながら、1870年の万国博覧会のシンボルとして設計された、セヌ河に面するエッフェル塔の横を通りました。また、デパートの歴史をめぐる展覧会の鑑賞では、国際的な政治的影響力と並行して発展してきた都市型消費文化のあり方を考えさせるものでした。

他方、ナント市の代表的観光スポットであるパサージュ・ポメレー（写真2）は、世界を縮小した空間として19世紀パリを象徴するガラス張りのデパート・パサージュという文明装置に影響をうけつつ、貿易によってもたらされた地方都市の発展や豊かさを体現するものでした。しかしながら、その豊かさの裏にはアフリカ・ヨーロッパ・新世界との間の三角貿易の歴史があることは、例えばナント市の伝統的な特産品である飴づくりに必要な製糖産業に垣間見ることができます。また、同じくナント市の重要観光スポットである植物園には遠方の珍しい植物の集積がみられますが、それは同時に帝国的な膨張から収集されてきたことをうかがいすることができます。

このようなナント市にある、文明発展の歴史における複雑な二面性は、本学が実施する短期留学全般に共通する「持続可能性」というテーマに深くかかわっています。このような環境で参加学生が2週間過ごすことの意味が徐々に露わになります。例えば、事後学習のグループ発表では、二つの重要なモチーフが明確に現れました。多文化経営・ヨーロッパ連合(EU)・ホームステイという勉強・体験を通して、参加学生は現在の社会的課題への関心、日本事情に関する企画に対する好奇心、議論や双方向的なコミュニケーションの重要性などを自覚させられました。そして、国際交流によって、グローバルな政治・経済・環境・スポーツ・衣食住の形成をめぐる認識のあり方、相手（個人であれ、組織であれ）に対する思い込み・警戒心・ステレオタイプな価値観を取り払う努力、そして対話に参加しうるだけの自己表現力や発言内容を磨き上げる第一歩を踏み出すきっかけになったのではないのでしょうか。

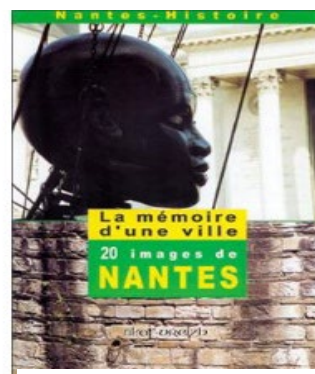


写真1 La memoire d'une ville, 2001



写真2 オーデンシアからのお土産
(絵ハガキ)

(3)【短期派遣】ベトナム短期留学プログラム(ホーチミン市師範大学)

竹澤 大史

ベトナムでの海外短期研修プログラムに学生を引率した。ベトナム南部の自然、文化、歴史の学習のため、ミトー地域、クチ地域、戦争戦証博物館などを見学訪問した。また教育、福祉に関する学習のため、小学校や児童発達センター、児童養護施設などを体験訪問した。さらに本学と協定を結ぶベトナム国立ホーチミン市師範大学において、ベトナムの大学生との交流及び共同学習を指導するとともに、学生の健康・安全の管理を行った。あわせてホーチミン市師範大学の国際協力部門と今後の留学プログラム及び国際交流の継続について協議した。



Binh An 児童発達センター



Chi Lang 小学校



Thien Phuoc 児童養護施設



終了式 (ホーチミン市師範大学)

(4)【短期派遣】第12回タイ・プログラム(「海外体験演習(タイ)」)

日本学教育研究センター 藤山 一郎

日 時: 2025 年2月10 日～22 日

場 所: タイ王国(バンコク、アユタヤ、チョンブリー、チェンマイ)

参加者: 1 年生 15 名、2 年生 1 名(TA)

「タイ・プログラム」は 1 回生のみが参加できる短期海外体験学習であり、グローバル人材育成の起点として位置づけている。今回は 15 名の参加を得た。現地渡航は 2 月 10 日から 22 日までの 13 日間であるが、事前講義から事後講義も含めると約 1 年間にわたる長期のプログラムである。

本プログラムは多様な文化、歴史が交錯するタイに身を置いて他者を理解し、翻って自己を振り返ることを目標としている。首都バンコク郊外の学校(協定大学附属校)、およびタイ第 2 の都市チェンマイ郊外の学校(中・高併設)における交流活動および調査活動を実施した。参加学生は、後期セメスターの事前講義として、交流企画や調査内容など多様な課題について準備を重ねてきた。

本プログラムは、カウンターパートとしてタイの教育 NGO「The Education for Development Forum(EDF)」と共同で開発をおこない、EDF スタッフが全日程にわたって同行した。同行中は参加学生と英語で様々な説明や日常会話をおこない交流を深めてきた。

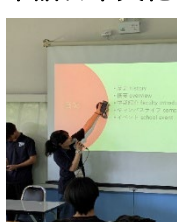
(1)【チョンブリー】カセサート大学附属学校マルチリンガルプログラム校交流



(2)【チェンマイ郊外】ウィンサマキー学校交流



(3)【チェンマイ】パヤップ大学人文学部日本語日本文化学科交流



(5)【短期派遣-他機関】JICA 海外協力隊体験プログラム(ガーナ、マラウイ)

日本学教育研究センター 石原 伸一

独立行政法人国際協力機構（JICA）が大学生を対象に国際協力への理解促進と将来の JICA 海外協力隊への参加を促すことを目的に試行している JICA 海外協力隊体験プログラム※を通じ、2025 年 2 月 16 日～3 月 9 日までアフリカのガーナに 2 名（教育学部、経済学部）、マラウイに 3 名（観光学部、経済学）の学生を派遣した。

学生の派遣に先立ち、1 月 28 日に本山学長による激励会が行われた。本山学長は、「今回のアフリカでの活動は、今後の皆さんの大きな自信と力につながっていくはず。まずは現地になじんで安全・健康に気をつけて取り組んでほしい」と激励した（激励会の様子は日本学教育研究センターHP に掲載：

<https://www.wakayama-u.ac.jp/c.js/news/2025012800033/>）。



本山学長による激励会



本山学長と参加学生

本プログラムに参加した学生 5 名は、各国のパートナー団体と現地で話し合いながら、自分たちで栄養、食品、衛生面の活動を企画し、取り組んだ。これら活動の様子や学生が感じたことを以下のインスタで発信した。本プログラムの参加を通じ、世界を知り、自分を知り、人々の温かさに触れ、それぞれの次のステップに向けての成長につながる貴重な経験となった。

◆ ガーナ・チームのInstagram

https://www.instagram.com/noconoco_ghana/

◆ マラウイ・チームのInstagram

<https://www.instagram.com/tkg6644?igsh=MW83cmoxdGVzYWM5aA==>

※ 独立行政法人国際協力機構（JICA）が大学生を対象に途上国の社会・経済問題について考え、行動する機会を提供し、国際協力への理解促進と、将来の JICA 海外協力隊への参加を促すことを目的とし、2024 度から試行的に開始。2025 度は、2 回目の試行で、JICA と連携関係のある和歌山大学を含め 4 大学 15 名の学生をアフリカのガーナ、マラウイに派遣。JICA と連携覚書のある和歌山大学は連携協力の一環として学内募集・書類審査、学生への側面的な支援を行った。

【日本学教育研究センター教職員一覧】 (2025 年 3 月 31 日 時点)

センター長	長友 文子	教授
副センター長	安本 博司	准教授
	藤山 一郎	教授 ※編集担当
	石原 伸一	特任教授
	嶋本 圭子	特任助教

【国際交流課】

課長	寺本 匠
係長	三村 理恵
係員	篁 紘子
係員	多々良 葉里
係員	貴志 真帆
係員	赤堀 亘
係員	程 奈緒子





Wakayama University
Center for Japanology Studies